

善光寺御開帳記念

“いのり”のかたち

—信濃の仏像と国宝土偶「仮面の女神」縄文のビーナス—

信濃美術館にて5月31日まで

武笠朗実践女子大学教授監修

善光寺御開帳記念 “いのりのかたち—信濃の仏像と国宝土偶「仮面の女神」「縄文のビーナス」—展が、長野県信濃美術館において、5月31日(日)まで開催されています。実践女子大学美学美術史学科学、武笠朗教授(仏教美術史、善光寺顧問)が本展の総監修を担当いたしました。

善光寺信仰の広がりを示す善光寺仏師妙海の仏像をはじめ、重要文化財9点を含む、ふだんは拝観できない長野県内各地の秘仏や善光寺ゆかりの宝物を一堂に会しています。

また、東京藝術大学大学院美術研究科保存修復彫刻研究室による仏像制作過程等の展示により、わかりやすく仏教美術に親しむ場を提供しています。

『特別展示 国宝土偶』における、茅野市尖縄文考古館の所蔵の「仮面の女神」と「縄文のビーナス」は、同館より今回の展示のために貸し出されたものです。仏教伝来以前の“いのり”のかたちとして日本彫刻史のはじめをかざる国宝土偶。現在全国で5体のみが指定されており、うち2体が長野県茅野市出土のもので、今回は同時に2体を鑑賞いただけるまたとない貴重な機会です。

「仮面の女神」の愛称をもつこの土偶は、茅野市湖東の中ッ原遺跡から出土した、全身がほぼ完存する大形土偶です。全長は34センチ、重量は2.7キロあります。顔に仮面をつけた姿を思わせる形であることから、一般に仮面土偶と呼ばれるタイプの土偶です。今から約4000年前の縄文時代後期前半に作られました。

「縄文のビーナス」は茅野市内の米沢埴原田の工業団地の造成に伴い、棚畑遺跡から昭和61年に発掘されました。顔はハート形のお面を被ったような形をしています。切れ長のつり上がった目や、尖った鼻に針で刺したような小さな穴、小さなおちょぼ口などは、八ヶ岳山麓の縄文時代中期の土偶に特有の顔をもっています。また、耳にはイヤリングをつけたかと思われる小さな穴があげられています。

腕は左右に広げられて手などは省略されています。また、胸は小さくつまみ出されたようにつけられているのですが、その下に続くお腹とお尻は大きく張り出しており、妊娠した女性の様子をよく表しています。

この機会に大切に守り継がれる“いのり”のかたちを沢山の方々にご覧いただきたく、ご案内する次第です。記事として貴紙読者の方々にご紹介いただければ幸いです。

記

会期： 2015年4月4日(土)～2015年5月31日(日)

休館日： 毎週水曜日 *5/6は開館

開館時間： 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

観覧料： 大人1,300円、大学生1,100円、高校生以下無料

主催： 長野県、長野県信濃美術館、信濃毎日新聞社

会場： 長野県信濃美術館 〒380-0801 長野市箱清水1-4-4 (善光寺東隣、城山公園内)

問い合わせ電話：026-232-00052 HP <http://www.npsam.com/sp/>

プレスリリースに関するお問合せは下記へ-----

■実践女子学園 総合企画部広報室/山口義憲 後藤江利架

電話(042) 585-8804

E-mail: koho-ml@jissen.ac.jp